



五木東小 第34号

学校便り
文責
生田 文明

緑の少年団活動 ～椎茸菌のこま打ち・記念植樹～



二月二十八日（土）緑の少年団活動の一環として、三年ぶりに椎茸のこま打ち体験を親子一緒に五木源パークのドーム内で行いました。

こま打ちの仕方を森林組合の中村さんに教えていただいた後、準備していただいた「ほだ木用のクヌギ」約百二十本に、椎茸菌のこまを約二千四百個植菌しました。

親子一緒に、友だちと協力してこま打ちを行い、約二十分で作業が完了しました。子どもたちの中には、家で椎茸を栽培しているところもあり、慣れた手つきで「コンコン」と軽快にこま打ちする親子の姿もありました。

こま打ちが済んだ「ほだ木」は、体育館裏に寝かせています。早ければ今年の秋には収穫できるとのこと、また学校での楽しみが一つ増え、うれしくなりました。

こま打ちのあとは、緑の少年団の退団式と退団記念植樹を行いました。

今年から、村のご厚意で五木源パークの「みんなの森」に、植樹場所を確保していただきました。今後も「みんなの森」に植樹を続けていけたらと思います。十年後、二十年後、そして五十年後には、児童が植樹した木が、大木となり、子どもや孫、そして友だち



や地域の方が一緒にみんなで憩い・遊べる。まさに「みんなの森」なっていると嬉しいです。五木源パーク「みんなの森」創世の記念すべき日となりました。

部活動お別れ会

五木源パークでの記念植樹の後、小学校で今年度最後の部活動を行いました。

サッカー部・バドミントン部とも恒例となりました親子対決を、今年も行いました。

サッカー部では、男子児童対その保護者、女子児童対その保護者、そして一年生児童対その保護者の三つの親子対決が行われました。親に果敢に立ち向かっていく子どもたち。それに負けまいと好プレー・珍プレーで応酬する保護者。

春を先取りした暖かな日差しの中で、心温まる、和やかな試合が展開されました。

一方、バドミントン部では、シングルでの親子対決と親子ペアでのトーナメント戦が行われました。俊敏な子どもたちの動きに比べ、運動不足のために、フットワークがぎこちないお父さん・お母さん。子どもたちに振り回される場面が多く見受けられました。また、親子でダブルスでは、親子ならではの譲り合いによる珍プレー・好プレーも見ること



ができました。

両部活の親子試合のあとは、六年生一人一人から、部活動で学んだことの発表がありました。技術面だけでなく、礼儀・諦めない心・協力・思いやり等、多くのことを学んだと、みんなに話してくれました。

中学校でも部活動をとおして、さらに心身を鍛えてほしいと思います。

“親切・思いやり”とは

心を伝え合う集会から

二月二十六日（木）の五木源タイムに、本年度三回目の「心を伝え合う集会」を行いました。

今回のテーマは「親切と思いやり」。どの学級も、学習したことをしっかりと伝えるなど、とても上手な発表でした。

一年生は「ぼくのはな さいたけど」という教材で『人に優しくすると、みんなが喜ぶ』、二年生は「かつば わくわく」で『人に優しくすると、された人も優しくなる』、三・四年生は「ポロといっしょに」で『思いやりの心を行動にする』、五・六年生は「レジにて」で『優しい気持ちで接することが大切』ということを学びました。

それぞれの意見交換も良かったです。「優しいだけが親切や思いやりではない」との高学年の意見もあり、上級生としての成長もみせてくれた集会でもありました。

五木の宝である子どもたち。学んだことと行動が一致できるように、教育活動全体を通して今後も指導していきたいと思ひます。

